

## 日中友人関係の形成に関する研究

## - 6人の在日中国人留学生の語りから -

立命館大学大学院

応用人間科学研究科

対人援助学領域

発達・福祉臨床クラスター

張 敏芝

本研究では、親友を「礼儀省略の深い触れ合いで信頼し合い」と定義し、中国人留学生における日本人との友人関係の構築を取り上げる。滞日1年以上の六人の中国人留学生を対象に半構造化インタビューを行い、同国人との友人関係の構築と比較しながら、同年代の同性の日本人との友人関係をめぐってどのような体験をしているのかについて分析し、異文化における友人関係の形成を促進する、あるいは妨げる要因を見出し、六人の在日中国人留学生が実際に日本人との親密な友人関係を構築していくプロセスを明らかにすることを目的とする。

六人の語られた内容を把握するために、KJ法に基づき、回答の分析・整理を行った結果、友人関係の形成を促進する要因は【b-1.深い自己開示】【b-2.関係を維持するため、不可欠な付き合う時間とチャンス】【b-3.日本人の友人との類似性】【b-4.異国友人作りの意欲がある】【b-5.相互理解】【b-6.日本人の友人との信頼関係】であり、【c-1.言語の障壁】【c-2.文化による擦れ違い】【c-3.心理的距離が近い中国人との人間関係】【c-4.日本人の親友を作る必要性がないことへの気づき】【c-5.友人関係の継続に対するネガティブな展望】は友人関係の形成を妨げる要因になることが明らかになった。さらに、留学生はいかに日本人と親密な友人関係を築こうとしているかという観点から、グループの関係性を考慮しながら時間軸に基づくプロセスを分析し、異文化間における中国人留学生と日本人との友人関係の構築は少なくとも『相互作用を築くことで親友になったプロセス』『消極的関与による表面的な友人関係にとどまるプロセス』と『積極的関与によっても親友にならなかったプロセス』の三つのプロセスがあると考察された。

本研究の分析から、中国人留学生がどのように日本人と友情を築いていくかというプロセスとその構造がある程度明らかにされたと考えられる。特に異文化間における友人関係の構築に影響を与えた要因として、特に目立っていた中国人ネットワークの影響と時間的要素について考察を行った。さらに、友人関係の相互作用の視点から両者の実際の対人行動に重点を置くのが効果的であると示唆した上で、中国人の対人行動に特徴的なものについても論じた。今後は性差についての検討や、受け入れ側として異国友人に対してどんな期待を求め、どんな困難が感じられ、異国友人と親密化していく過程で受け入れ側の要因がどのように影響しているかなどホスト側の視点からの研究が求められる。